# SCPI コマンド便覧

- ・ 内容一覧表 それぞれの SCPI サブシステムを要約します。
- SCPI サブシステムーそれぞれの SCPI サブシステムにあるすべてのコマンドについての 詳細な情報を提供します。

# 内容一覧表

表 18-1 から 18-11 は、それぞれの SCPI サブシステムで使うコマンドをまとめたものです。次のリストには、SCPI サブシステムと、各コマンドの要約が掲載されている表の番号が記載してあります。

表 18-1 CALCulate コマンドの要約

表 18-2 DISPlay コマンドの要約

表 18-3 FORMat コマンドの要約

表 18-4 OUTPut コマンドの要約

表 18-5 ROUTe コマンドの要約

表 18-6 SENSe コマンドの要約

表 18-7 SOURce コマンドの要約

表 18-8 STATus コマンドの要約

表 18-9 SYSTem コマンドの要約

表 18-10 TRACe コマンドの要約

表 18-11 TRIGger コマンドの要約

### 総合注記

- ・ 任意文字セットを表記するために、プラケット([]) を使用します。このような任意文字を、プログラムメッセージの中に含める必要はありません。プログラムメッセージの中では、ブラケットを使用しないでください。
- ・ アングルブラケット(◇)を使用して、パラメータタイプを表示します。プログラムメッセージの中では、アングルブラケットを使用しないでください。
- ・ ブールパラメータ(<b>)を使用して、計測器動作を使用可能または解除状態にします。 1または ON は動作を使用可能に、0または OFF は解除状態にします。
- 大文字は、コマンド語のショートフォームバージョンを示します。
- ・ デフォルトバラメーター記載したバラメータは、特に示す場合を除き、\*RST と: SYSTem:PRESet をデフォルトとします。バラメータに関する注記は、それぞれの表の末尾に記載してあります。
- ・ SCPI ーチェックマーク (√) は、そのコマンドとコマンドのパラメータが SCPI で確認されたことを示します。マークのないコマンドは、SCPI のコマンドですが SCPI 標準コマンドセットには準拠しません。これは SCPI コンソーシアムによる承認コマンドではありません。1 個以上の非 SCPI パラメータを使用するコマンドは、注記によって説明することを SCPI は確認しています。
- ・ ソースメモリーチェックマーク (√) は、:SOURce[1]:MEMory:SAVE コマンドを使って、指 定したコマンドに関連するパラメータを 100 カ所のメモリロケーションのどれにでも保 管できることを示します。

表 18-1 CALCulate コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト		ソース
		パラメータ	SCPI	メモリ
:CALCulate[1]	CALC1 を制御するサブシステム		√	
:MATH	数式を設定し制御するためのパス		√	
[:EXPRession] <form></form>	標準数式演算子の記号を使用して数式を		✓	
[:EXPRession]?	定義せよ。 数式を照会せよ。		√	
:CATalog?	数式名のリストを照会せよ。		√	
:NAME <name></name>	新しいユーザ定義式の名称を作れ。	Power	√	√
:NAME?	作った名称を照会せよ。		√.	
[:DEFine] <form></form>	:EXPRession <form> コマンドと同じ。</form>		√	
DELete	ユーザ定義式を削除するためのパス		√	
[:SELected] <name></name>	指定された式を削除せよ。		V	
:ALL	すべてのユーザ定義式を削除せよ。	1		
:UNITs <name></name>	数式の単位名称を定義せよ	"w "	,	√
.CIVITS CHAME	(3 個の ASCII 文字)。	1		•
:UNITs?	数式の単位名称を照会せよ。			
:STATe <b></b>	数式を有効または解除状態にせよ。	OFF	√	√
:STATe?	数式の状態を照会せよ。	1	V	,
:DATA	CALC1 データへのパス。		V	
:LATest?	最新の演算結果だけを戻せ。		'	
:DATA?	数式の結果を読みとれ。		✓	
,DAIA:				
:CALCulate2	CALC2 を制御するためのサブシステム		√	
:FEED <name></name>	入力パスを選択せよ;CALCulate[1], CURRent,	VOLT	√	√
	VOLTage, or RESistance.			
:FEED?	CALC2 フィードを照会せよ。		√	
:NULL	RELを設定、制御するためのパス			
:OFFSet <nrf></nrf>	REL の値を指定せよ;-9.9e37 から	0		√
.011	9.9e37			
:OFFSet?	RELの値を照会せよ。			
:STATe <b></b>	RELを有効または解除状態にせよ。	OFF		✓
:STATe?	RELの状態を照会せよ。			
:ACQuire	自動的にREL値を取得せよ。			
:DATA	CALC2 データへのパス		✓	
:LATest?	最新のRELまたはLIMITの結果だけを戻せ。			
:DATA?	CALC2の演算結果を読み取れ。		√	
:LIMit[1]	リミット1試験を制御するためのパス	Į	✓	
:COMPliance	リミット「試験を設定せよ。		'	
:FAII. <name></name>	「不合格」条件を指定せよ;コンプライアンスの	IN		√
illing similer	中 (IN) か、外 (OUT) か。			•
:FAIL?	「不合格」条件を照会せよ。			
:SOURce2 <nrf></nrf>	出力「不合格」パターンを指定せよ(0から7は	15		√
I <ndn></ndn>	3ピット、0から15は4ピット)			
:SOURce2?	「不合格」ビットパターンを照会せよ。			
:STATe <b></b>	リミット1試験を有効または解除状態にせよ。	OFF	√	√
:STATe?	リミット1試験の状態を照会せよ。		√	
:FAIL?	リミット1試験の結果を戻せ;0(合格)または1(不合格)		V	
		1		

....

表 18-1 CALCulate コマンドの要約(続き)

コマンド	内容	デフォルト		ソース
		バラメータ	SCPI	メモリ
·CALCulate2				
:LIMit2	リミット2試験を制御するためのパス		√	
:UPPer	上限を設定せよ。		√	
[:DATA] <n></n>	上限を指定せよ;-9.999999e20から	1	·	√
[	9.999999e20	·	'	•
[:DATA]?	上限を照会せよ。		√	
:SOURce2 <nrf></nrf>	グレーディングモードの出力「不合格」パターンを	15	. '	√
I <ndn></ndn>	指定せよ(0から7は3ビット、0から15は4ピット)。			. •
:SOURce2?	「不合格」ビットパターンを照会せよ。			
:LOWer	下限を設定せよ。		✓	
[:DATA] <n></n>		-1	V	V
[:DAIA] (II)	下限を指定せよ;-9.99999e20 から	-1	V	v
CINATIA 10	9. 99999e20		✓	
[:DATA]?	下限を照会せよ。	1.5	1	√
:SOURce2 <nrf></nrf>	グレーディングモードの出力「不合格」パターンを	15		v
I <ndn></ndn>	指定せよ(0から7は3ビット、0から15は4ビット).		ļ [	•
:SOURce2?	「不合格」ビットパターンを照会せよ。			
:PASS	ソーティングモードの「合格」パターンを指定するパス	. <b>-</b>		
:SOURce2 <nrf></nrf>	出力「合格」パターンを指定せよ (0 から 7 は	15	√	√
! <ndn></ndn>	3 ビット、0 から 15 は4 ビット)			
:SOURce2?	「合格」ビットパターンを照会せよ。		,	,
:STATe <b></b>	リミット2試験を有効または解除状態にせよ。	OFF	√,	√
:STATe?	リミット2試験の状態を照会せよ。		√,	
;FAIL?	リミット2試験の結果を戻せ;0(合格)または1(不合格)		√	
:LIMit3	リミット3試験を制御するためのパス		√	
:UPPer	上限を設定せよ。		√.	_
[:DATA] <n></n>	上限を指定せよ;-9.99999e20から	1	√	√
	9, 999999e20			
[:DATA]?	上限を照会せよ。		√	
:SOURce2 <nrf></nrf>	出力「不合格」パターンを指定せよ(0から7は	15		√
<ndn></ndn>	3ビット、0から15は4ビット)			
:SOURce2?	「不合格」ビットパターンを照会せよ。			
:LOWer	下限を設定せよ。		√	
[:DATA] <n></n>		-1	√	√
	下限を指定せよ;-9.999999e20から			
[:DATA]?	9. 999999e20		√	
:SOURce2 <nrf></nrf>	下限を照会せよ。	15		V
I <ndn></ndn>	グレーディングモードの出力「不合格」バターンを			
:SOURce2?	掴定せよ(Uから / は 3 ピット、Uから 13 は 4 ピット).			
:PASS	「不合格」ビットパターンを照会せよ。		j [	
:SOURce2 <nrf></nrf>	ソーティングモードの「合格」パターンを指定せよ。	15	✓	√
<ndn></ndn>	出力!合格」パターンを指定せよ(0 から 7 は			•
:SOURce2?	3 ビット、0 から 15 は 4 ビット).			
:STATe <b></b>	リミット3試験を有効または解除状態にせよ。	OFF	√	√
:STATe?	リミット3試験の状態を照会せよ。		\ \ \ \ \	•
:FAIL?	リミット3試験の結果を戻せ;0(合格)または1(不合格	)	V	
14 6 3.544 4				

表 18-1 CALCulate コマンドの要約(続き)

コマンド	内容	デフォルト パラメータ	i 1	ソース メモリ
		ハラメータ	3Cr1	メモリ
:CALCulate2	1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -			
:LIMit4	リミット4試験のパス(コンタクトチェックオプションのみ)			
:SOURce2 <nrf></nrf>	出力「不合格」パターンを指定せよ(0から7は	15		
<ndn></ndn>	3ビット、0から15は4ビット)。	ļ		
:SOURce2?	「不合格」ビットパターンに照会せよ。			
:STATe <b></b>	リミット4試験を有効または無効にせよ。	OFF	√	✓
:STATe?	リミット4試験の状態を照会せよ。		√	
:FAIL?	リミット4試験の結果を戻せ。0(合格)または1(不合格)		√,	
:LIMit512	リミット 5 からリミット 12 試験を制御するための		√	
	パス (注記参照)			
:UPPer	上限を設定せよ。		√.	
[:DATA] <n></n>	上限を指定せよ (-9.999999e20 から	1	√	√
	9,99999e20)		.	
[: <b>DATA</b> ]?	上限を照会せよ。		√	
:SOURce2 <nrf></nrf>	グレーディングモードの出力「不合格」パターンを指定せよ	15		✓
I <ndn></ndn>	(0から7は3ビット、0から15は4ビット).			
:SOURce2?	「不合格」ビットパターンに照会せよ。		,	
:LOWer	下限を設定せよ。		V	,
[:DATA] <n></n>	下限をお定せよ。 下限を指定せよ(-9.999999e20から	-1	√	√
	, - ,			
[:DATA]?	9.99999e20)		√	,
:SOURce2 <nrf></nrf>	下限を照会せよ。	15		✓
I <ndn></ndn>	グレーディングモードの出力「不合格」パターンを指定せよ	}		
:SOURce2?	(0から7は3ビット、0から15は4ビット).			
:PASS	「不合格」ピットパターンに照会せよ。	l	٠	,
:SOURce2 <nrf></nrf>	ソーティングモードの「合格」パターンを指定するパス	1.5	√	√
I <ndn></ndn>	出力「合格」パターンを指定せよ(0から7は			
:SOURce2?	3ビット、0から15は4ビット)。		,	,
:STATe <b></b>	「合格」ビットパターンを照会せよ。	OFF	√,	√
:STATe?	リミット5試験を有効または無効にせよ。		√	
:FAIL?	リミット5試験の結果を戻せ。0(合格)または1(不合格)		√	

注記 LIMit5 からLIMit12 までを使い、リミット5からリミット12 までの試験を制御してください。 たとえば、LIM5:STAT ON を送りリミット5を有効にしてください。LIMIO:FAIL?を送り、リ ミット10の結果を戻してください。

表 18-1 CALCulate コマンドの要約(続き)

コマンド	内容	デフォルト	. 1	ソース
		パラメータ	SCPI	メモリ
CALCulate2	リミット1からリミット12までの複合リミット	***************************************		Pt
:CLIMits	リミット1からリミット12まぐの後省リミット			
:BCONtrol <name></name>	ハンドラにビニング情報を送る時期を指定せよ。	IMM		
	リミット試験が終了したあとか(IMM)、スイープ、 リストまたはメモリシーケンス(END)のあとか			
	リストまたはメモリンピケンス (END) のめとか ビニング制御を照会せよ。	ļ		
:BCONtrol?	リミット試験の結果がディジタルI/Oラインを制御す			
:MODE <name></name>	うミット試験の看来がティンタル (O フィンを間降) るモードを設定せよ (GRADing または SORTing)。	GRAD	- [	
	リミット試験の結果がディジタル100ラインを制御するモードを照会せよ。			
:MODE?	対象結果をクリアせよ。			
:CLEar	一			
[:IMMediate]	ポートを:SOURce2:TTLの設定値に戻せ。		1	
[/IIII/Iemaio]	:INITiate コマンドが送られたら、試験結果の		1	
:AUTO <b></b>	,	ON		
	せよ。		1	
:AUTO?	オートクリアの状態を照会せよ。			
:PASS	「合格 ディジタル出力パターンを定義せよ。リミット2、			
,FA33	3、5-12 試験が無効であればソーティングモード		1	
:SOURce2 <nrf></nrf>	のみ。	15		√
<ndn></ndn>	出力「合格」パターンを指定せよ(0から7は	13		٧
	3ビット、0から15は4ビット)。		į	
:SOURce2?	「合格」ビットバターンを照会せよ。	ATTEME	1	√
:SMLocation <nrf></nrf>	次の「合格」ソースメモリスイーブ位置を指定	NEXT	- 1	Y
INEXT	せよ (NEXT 位置または 1 から 100)。		ĺ	
:SMLocation?	「合格」メモリロケーションを照会せよ。		1	
:FAIL	「不合格」ディジタル出力パターンを定義せよ。			,
:SOURce2 <nrf></nrf>	出力「不合格」パターンを指定せよ(0から7は	15		√
I <ndn></ndn>	3ビット、0から15は4ビット)。		-	
:SOURce2?	「不合格」ビットパターンを照会せよ。			
CALCulate3	CALC3 を制御するためのパス		√	
:FORMat <name></name>	演算フォーマットを指定せよ;MEAN、SDEViation、MA	MEAN	√	
AND THE REAL PROPERTY OF THE PERSON NAMED	Ximum、MINimum、またはPKPK		•	
:FORMat?	演算フォーマットを照会せよ。		√	
IT MATTERIAL!	CALC3 の演算結果を読み取れ。	1	√	

<sup>\*</sup>戻された値のフォーマット (ASCII、16進、8進、または2進) は FORMat: SOURce2<name> を使って設定します。

表 18-2 DISPlay コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト パラメータ	SCPI
:DISPlay			
:ENABle <b></b>	全面パネルディスプレイをオン状態に、またはオフ状態に入れよ。	(注記1)	\ ✓
:ENABle?	ディスプレイの状態を照会せよ。		V
:CNDisplay	ソース - メジャーディスプレイ状態に戻せ。		
[:WINDow[1]]	上部ディスプレイへのメッセージを探すためのパス		✓
:TEXT	ユーザテストメッセージを制御せよ。	(注記 2)	✓
:DATA <a></a>	ASCII メッセージ "a" を定義せよ(20 文字まで)。		√
:DATA?	テキストメッセージを照会せよ。		✓
:STATe <b></b>	メッセージモードを有効、または解除状態にせよ。	(注記3)	✓
:STATe?	テキストメッセージの状態を照会せよ。		✓
:DATA?	ディスプレイトップ部分のデータを照会せよ。		
:ATTRibutes?	メッセージ文字の属性を照会せよ;明滅(1) また は明滅なし(0)		
:WINDow2	下部ディスプレイへのメッセージを探すためのパス		√
:TEXT	ユーザテストメッセージを制御せよ。	(注記 2)	√
:DATA <a></a>	ASCII メッセージ "a" を定義せよ(32 文字まで)。		) V
:DATA?	テキストメッセージを照会せよ。	]	V
:STATe <b></b>	メッセージモードを有効、または解除状態にせよ。	(注記3)	√
:STATe?	テキストメッセージの状態を照会せよ。		1 1
:DATA?	ディスプレイ下部のデータを照会せよ。		'
:ATTRibutes?	メッセージ文字の属性を照会せよ;明滅(1)または		
	明滅なし (0)		
:DIGits <n></n>	ディスプレイの分解能を指定せよ;4 から7	6	
:DIGits?	ディスプレイ分解能を照会せよ。		

- 1. \*RST と:SYSTem:PRESet は、ディスプレイ回路には影響を与えません。電力サイクリングを行うと、ディスプレイ 回路は有効 (ON) になります。
- 2. \*RST と:SYSTem:PRESet は、ユーザ定義メッセージには影響を与えません。電力サイクリングを行うと、すべてのユーザ定義メッセージは取り消されます。
- 3. \*RST と:SYSTem:PRESet は、メッセージモードには影響を与えません。電力サイクリングを行うと、メッセージモードは解除状態 (OFF) になります。

表 18-3 FORMat コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト パラメータ	SCPI
:FORMat			
:SREGister <name></name>	ステータスイベントレジスタを読み取るためのデータフォーマット を選択せよ (ASCII、HEXadecimal、OCTal、または BINary)。	ASCii	√
:SREGister?	ステータスイベントレジスタを読み取るためのフォーマットを照会せよ。		
[:DATA] <type>[&lt;,length&gt;]</type>	データフォーマットを指定せよ;ASCII、REAL、32 または SREAL	ASCii	√
[:DATA]?	データフォーマットを照会せよ。		√
:BORDer <name></name>	パイト順序を指定せよ;NORMal または SWAPped	(注記参照)	√
:BORDer?	パイト順序を照会せよ。		√
:ELEMents			·
[:SENSe[1]] <item list=""></item>	データ要素を指定せよ (VOLTage、CURRent、RESistance、 Time、STATus)。	ALL	
[:SENSe[1]]?	データフォーマット要素を照会せよ。		
:CALCulate <item list=""></item>	CALC データ要素を指定せよ (CALC、TIME、 または STATus)。	CALC	
:CALCulate?	CALC データ要素を照会せよ。		
:SOURce2 <name></name>	SOURce2 データフォーマットを指定せよ (ASCII、HEXadecimal、 OCTal、または BINary)。	ASCii	
:SOURce2?	SOURce2 データフォーマットを照会せよ。		Ì

注記 バイト順序 - \*RST のデフォルトは NORMal です。:SYSTem:PRESet のデフォルトは SWAPped です。

表 18-4 OUTPut コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト パラメータ	SCPI	ソース メモリ
:OUTPut[1] :STATe <b> :STATe?</b>	[1]ソースをオン状態またはオフ状態にせよ。 ソースの状態を照会せよ。 インターロックを制御するためのパス	OFF	√ √ √	
:INTerlock :STATe <b> :STATe? :TRIPped?</b>	インターロックを有効または解除状態にせよ。 インターロックの状態を照会せよ。 インターロックトリップ?;1 (yes) または0 (no)	OFF		
:SMODe <name></name>	出力モードを選択せよ;HIMPedance、NORMal、 または ZERO 出力オフモードを照会せよ。	NORMAL		<b>√</b>

1.2430 型パルスモードの場合は、出力オフモードは常に NORMAL です。このコマンドは無効です (エラー+831)。

表18-5 ROUTe コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト パラメータ	SCPI	ソース メモリ
:ROUTe :TERMinals <name> :TERMinals?</name>	入力/出力端子を選択せよ (FRONt または REAR)。 入力/出力端子を照会せよ。	FRONt	√	V

表18-6 SENSe コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト パラメータ	SCPI	ソース メモリ
[:SENSe[1]]	センス1サブシステム		√	
:DATA	SENSe[1]へのパス		√	
[:LATest?]	最新の読み取り値のみ戻せ。			
:FUNCtion	測定機能を選択せよ。		√	
:CONCurrent <b></b>	2 つ以上の機能を同時に測定する能力を有効	ON	√	V
	または解除状態にせよ。解除状態の場合は、			
	電圧機能が有効になる。			
:CONCurrent?	同時発生状態を照会せよ。		V	
(:ON) <function list=""></function>	有効にする機能を指定せよ;VOLTage[:DC]、	CURRent	√	√
	CURRent [:DC]または RESistance			
:ALL	すべての機能を有効にせよ(有効が同時		√	
	発生します)、または抵抗機能を有効にせよ			
	(解除状態が同時発生します)。□	1		
:COUNt?	有効になった機能の数を照会せよ。		√,	
[:ON]?	有効になった機能のリストを戻せ。		√	_
:OFF <function list=""></function>	解除状態にする機能を指定せよ;	VOLTage,	√	√
	(VOLTage[:DC]、CURRent [:DC]または	RESistance		
	RESistance)			
:ALL	すべての測定機能を解除状態にせよ。		√	
:COUNt?	解除状態になった機能の数を照会せよ。		√	
:OFF?	解除状態になった機能のリストを戻せ。		√	
:STATe? <name></name>	指定した機能の状態を照会せよ;1 (オン状態)		√	
	または0(オフ状態)			

<sup>1 2430</sup>型パルスモードの場合は、同時測定は常に使用不可能です。このコマンドは無効になります (エラー+831)。

表18-6 SENSe コマンドの要約 (続き)

コマンド	内容	デフォルト		ソース
		パラメータ	SCPI	
				·
:CURRent[:DC]	電流を設定するためのパス		V	
:RANGe	測定レンジを設定せよ。		√	1.0
[:UPPer]	期待電流読み取り値を指定することにより、	1.05e-4	1/	√4
<n>IUPIDOWN</n>	レンジを選択せよ。「			
[:UPPer]?	レンジを照会せよ。		√,	10
:AUTO <b></b>	オートレンジを有効または解除状態に	ON	√,	√4
:AUTO?	せよ。2		√.	
:ULIMit?	オートレンジを照会せよ。		√	
:LLIMit <n></n>	【コンプライアンスレンジを戻せ。	1e-6	√	
	オートレンジ下限を設定せよ (-105e-6 から 105e-6)			
:LLIMit?	オートレンジ下限を照会せよ。		√.	
:NPLCycles <n></n>	積分速度(単位:ラインサイクル)を指定せよ:	1.0	√	√ <sup>4</sup>
	0.01 から 103			
:NPLCycles?	積分速度を照会せよ。		N.	
PROTection	電流コンプライアンスを設定するパス		√	
[:LEVel] <n></n>	Vソースの電流リミットを指定せより	1.05e-4	√.	√4
[:LEVel]?	電流コンプライアンスリミットを照会せよ。		√.	
:TRIPped?	電流コンプライアンス状態にあるか?;1 (yes)、0 (no)		√.	
:VOLTage[:DC]	電圧を設定するためのパス		√.	
:RANGe	測定レンジを設定せよ。		√	
[:UPPer]	期待電圧読み取り値を指定することにより、	21	√	√5
<n>IUPIDOWN</n>	レンジを選択せよ。「			
[:UPPer]?	│ レンジを照会せよ。 │ オートレンジを有効または解除状態に		١ ٧	15
:AUTO <b></b>	オートレンジを有効または膵骸状態に   せよ。 <sup>2</sup>	ON	√	√5
:AUTO?	オートレンジを照会せよ。		√,	
:ULIMit?	│ Vコンプライアンスレンジを戻せ。		√ :	
:LLIMit <n></n>	オートレンジ下限を設定せよ (-21 から 21)	0.21	√,	
:LLIMit?	オートレンジ下限を照会せよ。		√,	15
:NPLCycles <n></n>	積分速度(単位:ラインサイクル)を	1.0	۷	√5
	指定せよ;0.01 から 10。³		,	
:NPLCycles?	積分速度を照会せよ。		√	
:PROTection	電圧コンプライアンスを設定するパス		1	√5
[:LEVel] <n></n>	Iソースの電圧リミットを指定せよ。」	21	√,	1/2
[:LEVel]?	電圧コンプライアンスリミットを照会せよ。		√,	
:TRIPped?	電圧コンプライアンス状態にあるか?;1 (yes)、0 (no)		√	

<sup>1.</sup> このコマンドのパラメータ値には、詳細なコマンド参照情報が用意されています。SCPIコマンドの詳細な情報は、この部の最後のコマンド要約表の次に記載してあります。

<sup>2. 2430</sup>型パルスモードの場合は、オートレンジは無効になります (エラー+831)。

<sup>3. 2430</sup>型パルスモードの場合は、<n>= 0.004から 0.10。

<sup>4.</sup> ソース V がアクティブである場合

<sup>5.</sup> ソース I がアクティブでオートオームズが無効の場合

表18-6 SENSe コマンドの要約 (続き)

コマンド	内容	デフォルト パラメータ	SCPI	ソース メモリ
[:SENSe[1]]				
:RESistance	抵抗を設定するためのパス		√	
:MODE <name></name>	抵抗モードを選択せよ;MANual または AUTO	AUTO		√
:MODE?	抵抗モードを照会せよ。	ĺ		
:OCOMpensated <b></b>	オフセット補償抵抗測定を有効または無効にせよ。	OFF	1	- √
:OCOMpensated?	オフセット補償抵抗測定の状態を照会せよ。		√	
:RANGe	測定レンジを設定せよ。	ļ	√,	
[:UPPer]	期待抵抗読み取り値を指定することにより、	2.1e5	7 7	$\sqrt{7}$
<n>IUPIDOWN</n>	レンジを選択せよ。 <sup>2</sup>		V	
[:UPPer]?	レンジを照会せよ。			
:AUTO <b></b>	オートレンジを有効または解除状態にせよ。3	ON	V	√ √
:AUTO?	オートレンジを照会せよ。		Į Ý.	
ULIMit <n></n>	オートレンジ上限を設定せよ。2	1.0	√.	√
ULIMit?	オートレンジ上限を照会せよ。	1	1	·
LLIMit <n></n>	オートレンジ下限を設定せよ。2		1 7	
LLIMit?	オートレンジ下限を照会せよ。	2.1e8	1	
:NPLCycles <n></n>	積分速度(単位:ラインサイクル)を指定せよ;			
	0.01 から 10。4		,	
:NPLCycles?	積分速度を照会せよ。 		1	
:AVERage	デジタルフィルタを設定、制御するためのパスフィ	REPeat	√	
:TCONtrol <name></name>	ルタの種類を指定せよ;MOVing または REPeat。5		1	√ √
:TCONtrol?	フィルタの種類を照会せよ。		1	
:COUNt <n></n>	フィルタカウントを指定せよ;1 から 100 まで。5	10	√	√
:COUNt?	フィルタカウントを照会せよ。		1	
[:STATe] <b></b>	フィルタを有効または解除状態にせよ。6	OFF	<b>V</b>	1
[:STATe]?	フィルタの状態を照会せよ。		1	

- 1. 2430型パルスモードの場合は、このコマンドを使ってオフセット補償抵抗測定を有効にすることはできません。このコマンドは無効です (エラー831)。
- 2. このコマンドのパラメータ値には、詳細なコマンド参照情報が用意されています。SCPI コマンドの詳細な情報は、この部の最後のコマンド要約表の次に記載してあります。
- 3. 2430型パルスモードの場合は、オートレンジは無効になります(エラー+831)。
- 4. 2430型パルスモードの場合は、<n>=0.004から0.10
- 5. 2430型パルスモードの場合は、フィルタリングは使用しません。このコマンドは無視されます。
- 6. 2430型パルスモードの場合は、フィルタを有効にすることはできません。このコマンドは無効です(エラー+831)。
- 7. 自動抵抗測定が有効な場合

表18-7 SOURce コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト		ソース
		パラメータ	SCPI	メモリ
:SOURce[1]	ソーシング(ソースとなること)を制御するためのパス		<b>√</b>	
:CLEar	ソースをクリアするためのパス			
[:IMMediate]	選択したソースをオフ状態にせよ。			
:AUTO <b></b>	ソースのオートクリアを有効または解除状態にせよ。!			
:AUTO?	オートクリアの状態を照会せよ。	OFF		
:MODE <name></name>	オートクリアモードを指定せよ (ALWays また)	ALWays		
	i‡ TCOunt)。			
:MODE?	オートクリアモードを照会せよ。			
:FUNCtion	ソース選択		√	
:SHAPe <name></name>	2430 型のみー出力モードを選択せよ (DC または)	DC		√
	PULSe) <sub>o</sub>			
:SHAPe?	出力モードを照会せよ。		.	
[:MODE] <name></name>	ソースモードを選択せよ;VOLTage、CURRent	VOLTage	√	√
	または MEMory			
[:MODE]?	ソース選択を照会せよ。		√	
:DELay <n></n>	安定時間(単位 秒)を指定せよ;0 から 999.9999。2	0		√.
:AUTO <b></b>	自動安定時間を有効または解除状態にせよ。2	ON		√
:AUTO?	自動安定時間の状態を照会せよ。			
:DELay?	ソース安定時間を照会せよ。			
:CURRent	Iソースを設定するためのパス		✓	
:MODE <n></n>	Iソースモードを選択せよ;FIXed、SWEep、	FIXed	√	
	またはLIST			
:MODE?	Iソースモードを照会せよ。		√	
:RANGe <n>iUPIDOWNI</n>	固定 [ソースレンジを選択せよ。]	1.05e~4	√	√⁴
:AUTO <b></b>	オートレンジ設定を有効または解除状態にせよ。	ON	√	
:AUTO?	オートレンジ設定の状態を照会せよ。		√	
:RANGe?	Iソースレンジ設定を照会せよ。		√	
[:LEVel]	Iソースレベル(単位 A)を設定せよ。		√	
[:IMMediate]	ただちにレベルを設定せよ。		√	
[:AMPLitude] <n></n>	電流レベルを指定せよ。3	0	√	√4
[:AMPLitude]?	電流レベルを照会せよ。		V	
:TRIGgered	トリガするときのレベルを設定せよ。		√.	
[:AMPLitude] <n></n>	電流レベルを指定せよ。3	0	√	
[:AMPLitude]?	電流レベルを照会せよ。		√	
:SFACtor <n></n>	電流スケール係数を設定せよ	1.0		√4
	(-999.9999e+18から+999.9999e+18)。			
:STATe <b></b>	電流スケール係数を有効/無効にせよ。	OFF		√4
:STATe?	電流スケール係数の状態を照会せよ。			
:SFACtor?	電流スケール係数を照会せよ。			

- 1. 2430型パルスモードの場合は、オートクリアは常に有効になっています。このコマンドは無視されます。
- 2. 2430型パルスモードの場合は、ソース遅延は使用しません。このコマンドは無視されます。
- 3. このコマンドのパラメータ値には、詳細なコマンド参照情報が用意されています。SCPI コマンドの詳細な情報は、この部の最後のコマンド要約表の次に記載してあります。
- 4. ソース V がアクティブである場合

表 18-7 SOURce コマンドの要約 (続き)

コマンド	内容	デフォルト バラメータ		ソース メモリ
:SOURce[1]		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
;CURRent		E		
:STARt <n></n>	Iスイープのための開始レベルを指定せよ。¹	0	√	
:STARt?	電流スイープのための開始レベルを照会せよ。		√	
:STOP <n></n>	Iスイープのための停止レベルを指定せよ。 <sup>1</sup>	0	√	
:STOP?	電流スイーブのための停止レベルを照会せよ。		√	
:STEP <n></n>	Iスイープのためのステップ値を指定せよ。 <sup>1</sup>	0		
:STEP?	電圧スイープのためのステップ値を照会せよ。		l . i	
:SPAN <n></n>	スパンを指定せよ。」	0	√	
:SPAN?	スパンを照会せよ。		√	
:CENTer <n></n>	中心点を指定せよ。「	0	√	
:CENTer?	中心点を照会せよ。		√	
:VOLTage	Vソースを設定するためのパス		√	
:MODE <n></n>	V ソースモードを選択せよ;FIXed、SWEep、	FIXed	√	
	またはLIST	İ		
:MODE?	Vソースモードを照会せよ。		√	_
:RANGe <n>IUPIDOWN</n>	固定 V ソースレンジを選択せよ。「	21	√	$\sqrt{3}$
AUTO <b></b>	オートレンジ設定を有効または解除状態にせよ。	ON	√	$\sqrt{3}$
:AUTO?	オートレンジ設定の状態を照会せよ。		√	
:RANGe?	Vソースレンジ設定を照会せよ。		√	
[:LEVel]	V ソースレベル (単位 V) を設定せよ。	-	√	
[:IMMediate]	指定されたレベルを直ちに(immediate)設定せよ。		√	
[:AMPLitude] <n></n>	電圧レベルを指定せよ。!	0	√	$\sqrt{3}$
[:AMPLitude]?	電圧レベルを照会せよ。		√	
TRIGgered	トリガするときのレベルを設定せよ。	İ	√	
[:AMPLitude] <n></n>	電圧レベルを指定せよ。「	0	√	
[:AMPLitude]?	電圧レベルを照会せよ。		√	
:SFACtor <n></n>	電圧スケール係数を設定せよ	0		$\sqrt{3}$
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	(-999.9999e+18から+999.9999e+18)。	ļ		
:STATe <b></b>	電圧スケール係数を有効/無効にせよ。	OFF	1	$\sqrt{3}$
:STATe?	電圧スケール係数の状態を照会せよ。			
:SFACtor?	電圧スケール係数を照会せよ。			
:PROTection	出力電圧を制限するためのパス		√	
[:LEVel] <nrf></nrf>	電圧リミットレベルを指定せよ。「	(Note 2)	✓	
[:LEVel]?	電圧リミットを照会せよ。	[	<b>V</b>	
:TRIPped?	電圧リミット検出;1 (yes) ,0 (no)		√	

- 1. このコマンドのパラメータ値には、詳細なコマンド参照情報が用意されています。SCPIコマンドの詳細な情報 は、この部の最後のコマンド要約表の次に記載してあります。
- 2. SYSTEM:PRESet のデフォルトは40です。\*RST のデフォルトはNONEです。
- 3. ソース V がアクティブである場合

SOURce[1] :VOLTage :STARt <n> :STARt? :STOP <n> :STOP? :STEP <n> :STEP?</n></n></n>	V スイープの開始レベルを指定せよ。 <sup>1</sup> 電圧スイープの開始レベルを照会せよ。 V スイープの停止レベルを指定せよ。 <sup>1</sup> 電圧スイープの停止レベルを照会せよ。	パラメータ	SCPI √ √	メモリ
:VOLTage :STARt <n> :STARt? :STOP <n> :STOP? :STEP <n></n></n></n>	電圧スイーブの開始レベルを照会せよ。 Vスイープの停止レベルを指定せよ。「 電圧スイーブの停止レベルを照会せよ。			
:STARt <n> :STARt? :STOP <n> :STOP? :STEP <n></n></n></n>	電圧スイーブの開始レベルを照会せよ。 Vスイープの停止レベルを指定せよ。「 電圧スイーブの停止レベルを照会せよ。			
:STARt? :STOP <n> :STOP? :STEP <n></n></n>	電圧スイーブの開始レベルを照会せよ。 Vスイープの停止レベルを指定せよ。「 電圧スイーブの停止レベルを照会せよ。			
:STOP <n> :STOP? :STEP <n></n></n>	Vスイーブの停止レベルを指定せよ。「 電圧スイーブの停止レベルを照会せよ。	0	1 1	
:STOP? :STEP <n></n>	電圧スイープの停止レベルを照会せよ。	0		
:STEP <n></n>		1	√ .	
			√	
:STEP?	Vスイープのステップ値を指定せよ。 <sup>1</sup>	0		
	電圧スイープのステップ値を照会せよ。	1		
:SPAN <n></n>	スパンを指定せよ。」	0	√	
:SPAN?	スパンを照会せよ。	}	√	
:CENTer <n></n>	中心点を指定せよ。」	0	√	
:CENTer?	中心点を照会せよ。		√	
:SWEep	SWEeep ソースモードを設定せよ。		√	
:SOAK <nrf></nrf>	第1スイープ点ソーク時間を設定せよ	0.00000	V	
	(0.00000 から 9999.999s)。		√	
:SOAK?	ソーク時間を照会せよ。		√	
:SPACing <name></name>	スイープ間隔の種類を選択せよ;LINear または	LINear	√	
,	LOGarithmic		√	
:SPACing?	スイープ間隔を照会せよ。		✓ .	
:POINts <n></n>	スイープ点の数を指定せよ;2 から 2500 まで	2500	:	
:POINts?	スイープに含まれる点の数を照会せよ。		√	
:DIRection <name></name>	開始点から終止点(UP)へ、または終止点から	UP	·	
	開始点(DOWN)へスイープせよ。			
:DIRection?	スイープ方向を照会せよ。			
:RANGing <name></name>	ソースレンジ設定モード (BEST、AUTO、	BEST	√	
	または FIXed) を選択せよ。		√	
:RANGing?	ソースレンジ設定モードを照会せよ。		Ť	
:LIST	LISTソースモードを設定せよ。		√ .	
:CURRent <nrf></nrf>	1ソース値のリストを作成せよ。		,	
:APPend <nrf></nrf>	Iソース値をリストの末尾に加えよ。		√	
:POINts?	リストの中のソース値の数を照会せよ。		,	
:CURRent?	Iソースリストを照会せよ。		✓	
:VOLTage <nrf></nrf>	Vソース値のリストを作成せよ。」		'	
:APPend <nrf></nrf>	Vソース値をリストの末尾に加えよ。	[		
:POINts?	リストの中のソース値の数を照会せよ。			
:VOLTage?	Vソースリストを照会せよ。			

<sup>1.</sup> このコマンドのパラメータ値には、詳細なコマンド参照情報が用意されています。SCPIコマンドの詳細な情報は、この部の最後のコマンド要約表の次に記載してあります。

表18-7 SOURce コマンドの要約 (続き)

コマンド	内容	デフォルト パラメータ	SCPI	ソース メモリ
:SOURce[1]				
:MEMory	MEMory ソースモードを設定せよ。			
:SAVE <n></n>	設定値を記憶位置に保管せよ;1 から 100			
:RECall <n></n>	メモリから設定値を呼び出せ;1 から 100	1		
:POINts <n></n>	スイープ点数を指定せよ;1 から 100 まで			
:POINts?	スイープ点の数を照会せよ。			
:STARt <nrf></nrf>	ソースメモリの開始位置を指定せよ。	1	l	
	スイープ (1 から 100)			
:STARt?	開始位置を照会せよ。			
:PULSe	2430型ーパルスモード用のパルスを設定せよ。		√	
:WIDTh <n></n>	パルス幅 (0.00015 から 0.005 秒)		√	V
:WIDTh?	パルス幅を照会せよ。	}	√	
:DELay <n></n>	バルス遅延を設定せよ (0 から 9999.999 秒)。		√	V
:DELay?	パルス遅延を照会せよ。		√	
:SOURce2	デジタル出力ラインを制御するためのパス			
:BSIZe <n></n>	ディジタル I/O ピットサイズを設定せよ (3 または 4)。	4	i	
:BSIZe?	ディジタル I/O ビットサイズを照会せよ。		İ	
:TTL	7 1 7 1 4 2 2 1 7 1 1 2 m24 2 3 1 0			
[:LEVel] <nrf>,</nrf>	デジタル出力パターンを指定せよ。「	15		
<ndn></ndn>	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7			
[:LEVel]?	出力バターンを照会せよ。2		İ	
:TTL4	1433 × 1 2 11124 2 310			
:MODE <name></name>	ディジタル I/O モードを設定せよ (EOTest または BUSY)。	EOTest		
:MODE?	ディジタル I/O ライン4のモードを照会せよ。		1	
:BSTate <b></b>	BUSY または EOT の極性を設定せよ (HI または LO)。	LO		
:BSTate?	BUSY または EOT の極性を照会せよ。		-	
:CLEar	デジタル出力をクリアせよ。			
[:IMMediate]	TTL 出力パターンに復帰(クリア)させよ。			
:AUTO <b></b>	オートクリアを有効または解除状態にせよ。	ON		
:AUTO?	オートクリアの状態を照会せよ。			
:DELay <n></n>	合格/不合格バターンのパルス幅を	0.00001		
:DELay?	指定せよ;0.0000 から 60sec			
.iviiiy :	遅延を照会せよ。			

ビットレンジの設定には:BSIZe を使用。デフォルトは4ビットの場合は15、3ビットの場合は7です。
 フォーマットの設定にはFORMAt:SOURce2<name>を使用

表18-8 STATus コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト	SCPI	
:STATus	Mad Almand American American American	(注記1)	✓	
:MEASurement	制御測定イベントレジスタ	1,,,,,,		
[:EVENt]?	イベントレジスタを読み取れ。6	(注記2)	√	
:ENABle <ndn></ndn>	<b>  イネーブルレジスタをプログラムせよ。</b>	(注記3)	√	
or <nrf></nrf>				
:ENABle?	イネーブルレジスタを読み取れ。6		√	
:CONDition?	条件レジスタを読み取れ。6		√	
:OPERation	制御動作ステータスレジスタ		√	
[:EVENt]?	イベントレジスタを読み取れ。6	(注記 2)	✓	
:ENABle <ndn></ndn>	イネーブルレジスタをプログラムせよ。	(注記3)	✓	
or <nrf></nrf>			1	
:ENABle?	イネーブルレジスタを読み取れ。6		✓	
:CONDition?	条件レジスタを読み取れ。6		V	
:OUEStionable	制御疑問ステータスレジスタ		V	
[:EVENt]?	イベントレジスタを読み取れ。6	(注記 2)	V	
:ENABle <ndn></ndn>	イネーブルレジスタをプログラムせよ。	(注記3)	V	
or <nrf></nrf>	7.4 7.7 27.7 27 - 7.7 2.6 2.3	(1140 2)		
:ENABle?	イネーブルレジスタを読み取れ。。		V	
:CONDition?	条件レジスタを読み取れ。6		V	
:PRESet	ステータスレジスタをデフォルト状態に戻せ。		V	
	エラー待ち行列にアクセスするためのパス		Y	
:QUEue		/১≒=== 4)	√	
[:NEXT]?	最新のエラーメッセージを読み取れ。	(注記 4)	¥	
:ENABle <list></list>	エラー待ち行列に対してエラーメッセージとステータスメッセージを指定せよ。	(注記5)	<b>v</b>	
:ENABle?	有効になったメッセージを読み取れ。	· (/2-== -/	V	
:DISable <list></list>	エラー待ち行列に置かないメッセージを指定せよ。	(注記5)		
:DISable?	解除状態になったメッセージを読み取れ。	]		
:CLEar	すべてのメッセージをエラー待ち行列からクリアせよ。			

- 1. このサブシステムのコマンドは、\*RST と:SYSTem:PRESet の影響を受けません。電源再投入、\*CLS、:STATus: PRESet の影響は、次の注記で説明します。
- 2. イベントレジスター電源投入と\*CLS は、すべてのビットをクリアします。:STATus:PRESet は影響を与えません。
- 3. イネーブルレジスター電源投入と:STATus:PRESet は、すべてのビットをクリアします。\*CLS は影響を与えません。 SCPI 1995.0 (非 10 進数) フォーマット (または) を受け入れます。
- 4. エラー待ち行列ー電源投入と\*CLSは、すべてのビットをクリアします。
- 5. エラー待ち行列メッセージー電源投入は、メッセージリストをクリアします。\*CLS と:STATus:PRESet は影響を与えません。
- 6. レジスタ照会コマンドー応答メッセージのフォーマット (ASCII、16 進、8 進、または2 進) は、現在どのデータフォーマットが選択されているかによります (:FORMat\*SREGister コマンド参照)。

表 18-9 SYSTem コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト	SCPI	ソース
		パラメータ	SCFI	メモリ
:SYSTem	SYSTem:PRESet デフォルトに戻れ。		,	]
:PRESet			√	
:POSetup <name></name>	電源投入セットアップを選択せよ;RST、PRESet、またはSAV 0-4 電源投入セットアップを照会せよ。			
:POSetup?			,	
:VERSion?	SCPIの改訂レベルを照会せよ。		√	
:ERRor	エラー待ち行列にあるメッセージを読み取るためのパス(注記1)		,	
[:NEXT]?	最も古いエラーを戻し、クリアせよ (コードとメッセージ)。		√	
:ALL?	すべてのエラーを戻し、クリアせよ (コードとメッセージ)。			
:COUNt?	エラー数を戻せ。	İ		
:CODE	エラーコード番号のみを戻すパス			
[:NEXT]?	最も古いエラーを戻し、クリアせよ (コードのみ)。			
ALL?	すべてのエラーを戻し、クリアせよ(コードのみ)。	:		
:CLEar	メッセージをエラー待ち行列からクリアせよ。			,
:RSENse <b></b>	リモートセンシングを有効または解除状態にせよ。	OFF		√
:RSENse?	リモートセンシングの状態を照会せよ。			
:KEY <n></n>	キー・プレスをシミュレートせよ(1から3)まで)。図183を参照してください。		.	
:KEY?	最後に「押された」キーを照会せよ。		√,	
:GUARd <name></name>	ガードの種類を選択せよ (OHMS または CABLe)。	CABLe	√	
:GUARd?	ガードの種類を照会せよ。			
:BEEPer	ビーパを制御せよ。			
[:IMMediate]	指定周波数(65 から 2e6Hz)で指定継続期間			
<freq, time=""></freq,>	(0から7.9秒) にわたって鳴らせ。			
:STATe <b></b>	ビーパを有効または解除状態にせよ。	ON		
:STATe?	ビーパの状態を照会せよ。		√	
:AZERo	オートゼロを制御せよ。		√	_
[:STATe] <b></b>	オートゼロを有効または解除状態にせよ。	ON	1	√
[:STATe]?	オートゼロの状態を照会せよ。		√	
:LFRequency <freq></freq>	ライン周波数を選択せよ;50 または60 (Hz)	1		
:AUTO <b></b>	自動周波数を有効または解除状態にせよ。	(Note 3)		
:AUTO?	自動周波数の状態を照会せよ。	1		
:LFRequency?	ライン周波数を照会せよ。	1		
TIME	タイムスタンプ			
:RESet	タイムスタンプをゼロ秒にリセットせよ。			
:AUTO <b></b>	アイドル状態から抜け出るときタイムスタンプを有効たま解除状態にせよ	OFF	1	
:TIME?	タイムスタンプを照会せよ。			
:MEMory	メモリを初期化せよ。			
:INITialize	バッテリバックアップ RAM を初期化せよ。		√	
:LOCal	ユニットをリモート状態から外せ (RS-232 のみ)。		√	
:REMote	ユニットをリモート状態に入れよ (RS-232 のみ)。		1 1	
:RWLock <b></b>	ローカルロックアウトを有効または解除状態にせよ (RS-232 のみ)。			
:RCMode <name></name>	オートレンジをコンプライアンスモードに設定せよ	SINGle	1	
	(SINGle または MULTiple)。		1	
:RCMode?	コンプライアンスモードに設定されたオートレンジを照会せよ。			

- 1. エラー待ち行列のクリアー電源投入と \*CLS はエラー待ち行列をクリアします。 \*RST、:SYSTem:PRESet、:STATus: PRESetは影響を与えません。
- 2. SCPI との適合性については、:ROUTe:TERMinals コマンドを使用し、入力/出力端子を選択してください。
  3. 自動ライン周波数設定値は、\*RST、:SYSTem:PRESet の影響を受けません。

表 18-10 TRACe コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト パラメータ	SCPI
:TRACel:DATA :DATA? :CLEar :FREE? :POINts <nrf> :ACTual? :POINts? :FEED <name> :CONTrol <name> :CONTrol? :TSTamp :FORMat <name> :FORMat?</name></name></name></nrf>	TRACe または:DATA をルートコマンドとして使用せよ。 バッファの内容を読み取れ(データストア)。 読取り値をバッファからクリアせよ。 利用可能なバイトと使用中のバイトを照会せよ。 パッファサイズを指定せよ:1 から 2500 バッファに格納された読取り値の数を照会せよ。 パッファサイズを照会せよ。 読取り値のソースを選択せよ;SENSe[1]、CALCulate[1]、または CALCulate2 バッファ制御モードを指定せよ:NEVER または NEXT パッファ制御モードを照会せよ。 タイムスタンプフォーマットを設定するためのバスフォーマットを選択せよ;ABSolute または Δタイムスタンプフォーマットを照会せよ。	(注記参照)	<b>∀ ∀ ∀ ∀ ∀ ∀ ∀</b>

注記 :SYSTem:PRESet と \*RST は、このサブシステムのコマンドには影響を与えません。

表 18-11 Trigger コマンドの要約

コマンド	内容	デフォルト	
		パラメータ	SCPI
:INITiate[:IMMediate]	:INITiate[:IMMediate]		√
:ABORt	1ソース - メジャーサイクルを開始せよ。		√
:ARM	トリガシステムをリセットせよ。アイドル状態に移行します。		√
[:SEQuence[1]]	アームレイヤーをプログラムするためのパス		✓
[:LAYer[1]]			√
:COUNt <n></n>		1	√
:COUNt?	アームカウントを指定せよ;1 から 2500		√
:SOURce <name></name>	アームカウントを照会せよ。(INFinite = +9.9e37)	<b>IMMediate</b>	✓
· • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	制御ソースを指定せよ;IMMediate、TIMer、MANual、		ļ
:SOURce?	BUS、TLINk、NSTEStまたはPSTest)。		√
:TIMer <n></n>	制御ソースを照会せよ。	0.1	√
:TIMer?	タイマ間隔を秒で設定せよ;0.001 から 99999.99		√
[:TCONfigure]	タイマ間隔を照会せよ。		V
:DIRection <name></name>		ACCeptor	√
:DIRection?	バイパスを有効 (SOURce) または解除状態 (ACCeptox) にせよ。	•	✓
[:ASYNchronous]	バイパスの状態を照会せよ。		√
:ILINe <n></n>	出力トリガを設定せよ。	1	
:ILINe?	入力トリガラインを選択せよ;1、2、3、または4	_	
:OLINe <n></n>	入力トリガラインを照会せよ。	2	
:OLINe?	出力トリガラインを選択せよ;1、2、3、または4	-	
OUTPut <name></name>	出力トリガラインを照会せよ。	NONE	
	SWEep のあとトリガを出力せよ。またはまったく出力するな。(NON	, 101 <b>12</b>	
:OUTPut?	アーム出力トリガのステータスを照会せよ。		√
:TRIGger	トリガレイヤーをプログラムするためのパス		•
:CLEar	保留中の入力トリガがあれば、直ちに(immediate)クリアせよ。		Ĭ v
[:SEQuence[1]]	1 . 2 . 2 . 2 . 2 . 2 . 2 . 2 . 2 . 2 .	1	V
:COUNt <n></n>	トリガカウントを指定せよ;1 から 2500	•	V
:COUNt?	トリガカウントを照会せよ。	0	V
:DELay <n></n>	トリガディレイを指定せよ;0 から 999.9999(sec)1	"	ľ
:DELay?	ソースディレイを照会せよ。	IMMediate	V
:SOURce <name></name>	制御ソースを指定せよ;IMMediate またはTLINk	Hynviculate	V
:SOURce?	制御ソースを照会せよ。		v

<sup>1. 2430</sup>型パルスモードの場合は、トリガディレイは使用じません。このコマンドは無視されます。

表 18-11 Trigger コマンドの要約 (続き)

コマンド	内容	デフォルト パラメータ	SCPI
:TRIGger [:SEQuence[1]] [:TCONfigure] :DIRection <name> :DIRection [:ASYNchronous] :ILINe <n> :ILINe? :INPut <event list=""></event></n></name>	バイパスを有効(SOURce)または解除状態 (ACCeptor)にせよ。 バイパスの状態を照会せよ。 出力トリガを設定せよ。 入力トリガラインを選択せよ;1、2、3、または4 入力トリガラインを照会せよ。	1 NONE	<b>∀ ∀ ∀ ∀</b>
:INPut? :OLINe <n> :OLINe? :OUTPut <event list=""> :OUTPut?</event></n>	入力イベントディテクタを有効にせよ (SOURce、DELay、SENSe、または NONE) <sup>1</sup> 有効な入力イベントディテクタを照会せよ。 出力トリガラインを選択せよ;1、2、3、または 4 出力トリガラインを照会せよ。 SOURce、DELay、または SENSe のあと、トリガを 出力 (NONE) せよ。またはまったく出力するな。 <sup>2</sup> 出力トリガ発生時期を照会せよ。	2 NONE	The state of the s

- 1. 2430 型パルスモードの場合は、SOURce または NONE パラメータのみが有効です。DELay と SENSe パラメータは無視されます。
- 2. 2430型パルスモードの場合は、SENSc または NONE パラメータのみが有効です。DELay と SOURce パラメータは無視されます。

# Calculate サブシステム

Calculate サプシステムには 3 個のサプシステムがあります。CALC1 サプシステムは数式に、CALC2 はリミット試験に使用され、CALC3 はバッファに格納された読取り値に関する統計的データを提供します。これらのサプシステムのコマンドを、表 5-2 に要約します。

# CALCulate[1]

# 数式名称を選択(作成)せよ

注記

偏差率(%DEV)はカタログに内蔵数式として含まれていますが、フロントパネルからのみ使用可能です。ただし、偏差率はユーザー定義数式に加えて、リモートオペレーションで使用することができます(「プログラムの例1)。

Select (create) math expression name (数式名を選択(作成)する)

:CATalog?

:CALCulate[1]:MATH[:EXPression]:CATalog

数式名称のリストを照会せよ

説明

この照会コマンドを使用して、利用可能な数式名称のリストを作成します。この リストに含まれるのは、内蔵した数式名称とユーザが定義した数式名称です。内 蔵数式の名称は次のとおりです。

"POWER", "OFFCOMP  $\Omega$  ", "VOLTCOEF", "VARALPHA"

したがって、:CATalog?コマンドは、ユーザが定義した数式の名称だけではなく、 上記の名称を戻します。ユーザ定義数式に名称を割り当てるための:NAMEを参照 してください。

:NAME<name>

:CALCulate[1]:MATH[:EXPression]<name>

数式を選択せよ

パラメータ

<name> = "POWER"

瞬時電力数式

"OFFCOMPOHM"

オフセット補償抵抗数式

"VOLTCOEF"

抵抗電圧係数数式 バリスタアルファ数式

"VARALPHA"

ユーザ定義数式に割り当てた名称

"ユーザ名称"

ここでユーザ名称は、ASCII文字で設定

されます(10文字まで)。

照会

:NAME?

選択した数式を照会せよ。

説明

このコマンドを使用して、すでに存在する数式(内蔵またはユーザ定義による数式)を選択することができます。すでに存在する数式名称をリストするには、: CATalog?コマンドを使用します。実際の数式を読むには、:MATH?コマンドを使用します。内蔵数式(POWERを除く)は、計算の実行に2点スイープを必要とします。「プログラムフラグメント」は、これらの数式のためのソースメータを設定する方法を示します。

新しいユーザ定義数式を作成したいときには、次のステップを順番に行ってください。

- 1. 必要であれば、計算結果に単位を割り当ててください (:UNITs を参照)。単位は計算のため に格納されます。
- 2. このコマンドを使用して、数式に名称(10個までのASCII文字を使用して)を割り当ててください。
- 3. \*DEFine または EXPRession コマンドを使用して、数式を定義してください。新しい数式は、現在選択されている数式となります。

### 数式エラー

- +801「不十分なベクトルデータ」 ベクトルを完全に満杯にするのに十分なデータを取得する前にアイドル状態に戻った。CALC1の結果が形成されていません。
- +804「数式リスト満杯」-リスト(カタログ)が満杯の時に新しい数式名称を作成しようとした。
- +805 「未定義数式が存在」 前の数式の名称が未定義の状態で新しい数式名称を作成しようとした。
- +806「数式が見つかりません」-名称付の数式で見つけることのできないものを削除しようとした。
- +807「この定義は許されません」-これまでに名称を付与してない数式を定義しようとした。
- +808「この数式は削除できません」-内蔵数式の一つを削除しようとした(:DELete 参照)。
- +809「ソースメモリ位置が改訂されました」-:SOURce:MEMory スイープ位置が、もはや存在しない数式を参照したときに発生します。
- +811「演算子または数字ではありません」 有効な演算子または数字を使用しなかったので、無効の数式を定義した。
- +812「括弧の不整合」-開放括弧の数字は閉鎖括弧の数字と同じでなければなりません。たとえば、CALC:MATH:EXPR(2\*sin(VOLT)はこの種のエラーを発生します。
- +813「データハンドルの数字ではありません」-無効な浮動小数点数またはVOLT、CURR、RES、またはTIME以外の記号が数式に現れる。
- +814「ブラケットの不整合」ーベクトル化された数式指標のためのブラケットの使い方が適切でない。たとえば、CALC1:MATH:EXPR(VOLT[0\*CURR[0]) はこの種のエラーを発生します。
- +815 「括弧が多すぎる」 検出された閉鎖括弧の数が多すぎる。たとえば、CALC1:MATH:EXPR (In(VOLT)はこの種のエラーを発生します。
- **+816「数式全体がパーズされてない」**-ソース・メータが計算する関数を、入力数式が生成しない場合に発生します。
- +817「トークンが未知」 無効な関数名を使って数式を定義しようとした。

- +818「エラーパージング仮数」-浮動小数点数に無効な仮数がある場合に発生します。
- +819 「エラーパージング指数」 浮動小数点数に無効な指数がある場合に発生します。
- +820「エラーパージング値」-無効な浮動小数点値を入力したときに発生します。
- +821「無効データハンドル指標」-無効なアレイ指標値がベクトル化数式に割り当てられた。アレイ指標は0から最大2499までです。

- ・ 5 個のユーザ定義数式を作ることができます。
- ・ CALCI が使用状態にある場合に限り、選択した数式を実行することができます(:STATe 参照)。
- ・ 数式がベクトル化されている場合は、ベクトルアレイについてのすべてのソース メ ジャー動作が完了するまでは、数式演算の結果は生成されません。
- ・ メモリを初期化する (SYSTem:MEMory:INITialize) と、すべてのユーザ定義数式が削除され、POWER 数式を選択します。

### プログラムの例

OFFCOMPOHM、VOLTCOEF、VARALPHAは、数式計算を行うために、2個のソース-メジャースイープ点を必要とします。下記に示すのは内蔵数式の処理を行うようにソースメータを適切に設定するコードフラグメントです。

### 電力:

\*RST

:SENS:FUNC:OFF:ALL

:SENS:FUNC

"VOLT,"CURR"

:CALC:MATH:EXPR:NAME

"POWER"

:CALC:STAT

on

:OUTPUT

on

:INIT

:CALC:DATA?

### オフセットを補償した抵抗:

\*RST

:SENS:FUNC:OFF:ALL

:SENS:FUNC

"VOLT,"CURR"

:SOUR:FUNC

VOLT or CURR

if:SOUR:FUNC VOLT then

:SOUR:VOLT:STAR <n>
STOP <n>: MODE SWE

if:SOUR:FUNC CURR then

:SOUR:VOLT:STAR <n>

STOP <n>; MODE SWE

:SOUR:SWE:POIN

2

:TRIG: COUN

:CALC:MATH:EXPR:NAME

"OFFCOMPOHM"

:CALC:STAT

ON

:OUTPUT

ON

:INIT

:CALC:DATA?

### 抵抗電圧係数

\*RST

:SENS:FUNC:ON:ALL

:SENS:RES:MODE

:SOUR:FUNC:ON

if:SOUR:FUNC VOLT then

if:SOUR:FUNC CURR then

:SOUR:SWE:POIN

:TRIG: COUN :CALC:MATH:EXPR:NAME

:CALC:STAT :OUTPUT

:INIT

:CALC:DATA?

MAÑ

VOLT or CURR

:SOUR:VOLT:STAR <n>

STOP <n>: MODE SWE

:SOUR:VOLT:STAR <n> STOP <n>; MODE SWE

"VOLTCOEF"

ON ON

### バリスタアルファ

\*RST

:SENS:FUNC:OFF:ALL

:SENS:FUNC:ON

:SOUR:FUNC:MODE

:SOUR:CURR:STAR

:SOUR:SWE:POIN

:TRIG: COUN

:CALC:MATH:EXPR:NAME

:CALC:STAT

:OUTPUT

:INIT

:CALC:DATA?

# "VOLT,"CURR"

**CURR** 

<n>:STOP <n>;MODE SWE

2

"VARALPHA"

ON

ON

### 偏差率

注記 偏差率はリモート動作用の内蔵数式ではありません。このプログラムの例では、下記 の百分率 (PER\_DEV) 計算が生成され、10kΩの抵抗体を試験します。このユーザ定義 数式がカタログに追加されます。

PER DEV =  $(RES - 10k\Omega) / 10k\Omega \times 100$ 

ここで RESはDUTの実測抵抗です。 10kΩは基準値です。

\*RST

:SENS:FUNC:OFF:ALL

:SENS:FUNC:ON or "RES"

:CALC:MATH:UNIT "%"

:CALC:MATH:EXPR:NAME "PER DEV"

:CALC:MATH:EXPR((RES - 10e3) / 10em) \* 100

:CALC:MATH:EXPR:NAME "PER DEV"

:CALC:STAT ON

:OUTPUT ON

:INIT

:CALC:DATA?

注記 上記の:SOUR:VOLT コマンドと:SOUR:CURR コマンドで参照するパラメータ <n> は、 ユーザがプログラムする実際の演算を表します。ほかのすべてのコマンドは、表示されるとおりに入力する必要があります。

:DELete[:SELected] <n>

:CALCulate[1]:MATH[:EXPRession]:DELete[:SELected] < name> ユーザ定義数式を削除せよ。

パラメータ <name> = 「ユーザ - 名称」 ユーザ定義による数式の名称

説明 このコマンドを使用して、指定ユーザ定義数式をカタログから除去(削除)します。いったん除去すれば、それ以後は、その数式を選択することはできません。: CATalog?コマンドを使用して、その数式の除去を確認することができます。

たとえば、"math 1" という名称のユーザ定義数式を削除しようとする場合には、下記のコマンドを送ることになります。

:DELete"math 1"

内蔵数式を削除することはできません。削除しようとすると、「この数式は削除できません」というエラーメッセージ 808 が現れます。

:DELete:ALL

:CALCulate[1]:MATH[:EXPRession]

すべてのユーザ定義数式を削除せよ。

説明 このアクションコマンドは、すべてのユーザ定義数式をカタログから除去(削除) します。内蔵数式は影響を受けません。

Assign unit suffix(単位サフィックスの割り付け)

:UNITs <name>

:CALCulate[1]:MATH:UNITs <name> ユーザ定義計算の単位を指定せよ。

パラメータ <name> = 単一または二重引用符で囲まれた3個のASCII文字

照会 :UNITs? ユーザ定義計算の単位を照会せよ。

説明 このコマンドを使用して、ユーザ定義数式計算の単位サフィックス名を指定します。単位サフィックス名としては、3個の ASCII 文字を使用してください。3文字にならないときは、文字列の中のユニット名の右にスペースを追加してください。たとえば、ユニット名が "Z" であれば、次のような形で送信してください。:calc:math:unit "Z"

ユニットの名称は、次のように一重引用符の中で囲むこともできます。 :calc:math:unit 'Z'

# Define math expression (数式の定義)

[:EXPRession] <form> または[:DEFine] <form>

:CALCulate[1]:MATH[:EXPRession] <form>

数式を定義せよ。

:CALCulate[1]:MATH[:EXPRession][:DEFine] <form>

数式を定義せよ。

パラメータ <form>=計測器の読取り値、数値、標準数学演算子記号を使用する数式。詳細については説明の項を参照してください。

会訊

:MATH?

ユーザ定義数式を照会せよ。

説明

これら2個のコマンドのどれかを使用して、メジャー読取り値とソース読取り値、数値定数、標準数学演算子記号を使用する数式を定義してください。数式を定義したあと、その数式は、:NAMEコマンドを使用して作った名称に割り当てられ、選択数式になります。

メジャー読取り値とソース読取り値として有効なパラメータ名称には、次のものがあります。

VOLTage

VメジャーまたはVソース読取り値を使用せよ。

CURRent

IメジャーまたはIソース読取り値を使用せよ。

RESistance

抵抗読取り値を使用せよ。

TIME

タイムスタンプ読取り値を使用せよ。

有効な数学演算子とその演算の内容は、次にリストするとおりです。

- 加算
- 減算
- \* 乗算
- / 除算
- ^ 指数
- log 対数、底 10
- ln 自然対数
- sin 正弦
- cos 余弦
- tan 正接
- exp ex

注記 log と In の演算は、指定した数の絶対値について行います。たとえば log (100) = 2 であり log(-100)=2

数式は、下記の優先順位ルールに従って値を求めます。

- 1. 括弧に囲まれた数式
- 2. 単項演算子(+と-)
- 3. (べき乗)
- 4. (乗算)と/(除算)
- 5. + (加算)と-(減算)
- 6. 左から右へ

計算に使用する読取り値は、ソースメータの設定によって変わります。ソースメータがVのソースとなりIをメジャーするように設定されているときは、計算用の電圧読取り値はソース値であり、電流読取り値は電流測定値となります。逆に、ソースIメジャーV用の設定であれば、電流読取り値はソース値、電圧読取り値は電圧測定値となります。

メジャー読取り値が、ソース読取り値に優先します。したがって、ソースVメジャーV用の設定の場合は、計算用の電圧読取り値は、電圧測定値となります(プログラムされたVソース値ではありません)。逆に、ソースIメジャーI用に設定されている場合は、計算用の電流読取り値は電流測定値となります。

ソースまたはメジャーによらない読取り値を使用する計算の結果は、+9.91e37という無効 NAN (数ではない) 値となります。たとえば、ソース V メジャー V の計算で電流読取り値を使用すると、結果は NAN となります。

ソースIメジャーVの設定を使用する例

:cale:math (volt \* curr)

電圧測定値とIソース値を使用して電力を計算せよ。

計算のための設定を行い、計算が使用可能(:STATe参照)にされたあと、ソース - メジャー動作が行われると結果がディスプレイされます。:data?コマンドを使用して、結果をコンピュータに送ってください。

### ベクトル数式

ベクトルを取り入れることにより、数式計算にどの読取り値を使用するかを選択します。プログラムされたすべてのソース - メジャー動作が完了したあと、指定したベクトルが表示する読取り値を使用して、数式計算が行われます。

ベクトル数はブラケット([])の中に囲まれ、0から始まります。したがって、ベクトル0がアレイの中での最初の読取り値、ベクトル1は第2の読取り値、以下同様となります。数式の中の最大のベクトル数が、ベクトルアレイのサイズを決定します。

たとえば、ソースメータが 10 回のソース - メジャー動作を行うようにプログラムされており、 次のベクトル数式計算が使用されると想定します。

### (volt[3]-volt[9])

上記の式が定義するのは、10個の読取り値で設定されるベクトルアレイです。ソースメータは10回のソース - メジャー動作を行うように設定されているので、計算は10SDM サイクルごとに1つの結果を出すことになります。第4の電圧読取り値(ベクトル3)と第10の電圧読取り値(ベクトル9)を使って、計算を行います。

さて、ソースメータが20回のソース - メジャー動作を行うように設定されていると想定しましょう。ベクトルサイズは10のままですから、読取り値10のアレイ2個が生成されます。個の場合、計算はそれぞれのアレイごとに1つ、合計2つの結果を出します。

と第10(ベクトル9)の読取り値です。

第1の結果は、前と同じように、第1アレイの第4と第10の読取り値に基づくものです。第2

有効な計算結果を取得するためには、完全なペクトルアレイが必要です。上の例で、ソースメータの設定を変更して25回のソース-メジャー動作を行わせようとする場合、第3アレイが不完全なアレイとなります(第1アレイは10個の読取り値、第2アレイは10個の読取り値、第3アレイは5個の読取り値)。ソースメータがアイドル状態に戻ったあと、「ベクトルデータ不十分」というエラーメッセージがディスプレイされ、第3の結果はNAN(+9.91e37)となります。

の結果は、第14と第20の結果に基づくものです。これらは、第2アレイの第4(ベクトル3)

不完全ベクトルアレイを避けるために、プログラムしたソース-メジャー動作回数(アームカウント×トリガカウント)がベクトルアレイサイズの倍数であることを確認してください。前記の例では、ベクトルアレイサイズは10です。したがって「不完全ベクトルデータ」エラーを避けるためには、プログラムしたソース-メジャー動作回数は、10の倍数(10、20、30、40、以下同様)となることが必要です。

オフセット補償抵抗計算用の下記のベクトル数式は、正しいシンタクスを表します。 :cate:math ((volt[1]-volt[0]) / (curr[1]-curr[0]))

- 1. ネストされた括弧を使用して、計算に埋め込まれた数式計算を強行させてください (「ベクトル数式」の例を参照)。
- 2. 計算式の長さは、括弧とホワイトスペースを含めて256文字までです。
- 3. フィルタを使用する場合、計算に使用する測定読取り値は、フィルタ処理を受けており、計算の結果ではありません。
- 4. ベクトル計算の場合、REPEATフィルタだけを使用することを推奨します。リピートフィルタを使用する場合には、計算にはベクトル点のフィルタ処理読取り値だけが使用されます。 代わりに MOVING フィルタを使用すると、それぞれのベクトル点は、ベクトルアレイの中の、これまでのすべての読取り値のフィルタ処理平均値を反映します。
- 5. 計算結果のデータフォーマット (ASCIIまたは2進)を選択するには、:FORMat:DATA?コマンドを使用します (FORMatサブシステム参照)。\*RSTと\*SYSTem:PRESetデフォルトはASCIIです。
- 6. ブレース ([]) が数式の外に残されている場合は、その数式がアレイの最初のベクトル点を参照しているものと想定されます(すなわち VOLT は、VOLT[0]と同じです)。

Enable and read math expression result (数式結果を使用可能にし、読み取る)

:STATe <b>

:CALCulate[1]:STATe <b>

CALCIを制御せよ。

パラメータ <b>=0またはOFF

1または ON

CALCI の計算を解除状態にせよ。 CALCI 計算を使用可能にせよ。

照会

:STATE? CALC1の状態(オンまたはオフ)を照会せよ。

説明

このコマンドを使用して、CALCIの計算を使用可能または解除状態にします。使用状態にあるときには、ソースメータがトリガされてプログラムソース-メジャー動作を始めると、選択した数式の処理が実行されます。

ソースメータがアイドル状態に戻ったあと、:CALCI:DATA?コマンド(次のコマンド参照)を使用して、選択数式の計算結果を読み取ることができます。

解除状態にあるときには、:CALC1:DATA?コマンドが、+9.91e37という NAN (数ではない) 値を戻します。

:DATA?

:CALCulate[1]:DATA?

CALCI の結果を読み取れ。

説明

この照会コマンドを使用して、CALCIの計算の結果を読み取ります。有効な計算結果の最大値は、±9.9e37であり、これは(SCPIの定義によれば)無限大です。

スカラ数式(非ベクトル数式)の場合は、このコマンドを使用して、すべてのプログラムソース - メジャー点についての計算結果を戻します。たとえば、20回のソース - メジャー動作が行われた場合は、このコマンドによって20個の計算結果が戻されます。

ベクトル数式の場合は、このコマンドは、指定したベクトル点の計算結果を戻すだけです。

+9.91e37という無効 NAN (数ではない) が結果として表示されれば、下記の状態が存在することを意味します。

- ・ 数式の中に誤りがある。
- ・ 必要な測定機能が解除状態になっている。
- · CALC1が解除状態になっている(:STATe参照)。

注記 ソースメータ内部の各ブロックをデータが流れる状況の詳細な説明については、付録 Cの「データフロー」を参照してください。これを読めば、データを読み取るために 各種のコマンドを使って取得した読み取り値の種類が、明らかになります。

:LATest?

:CALCulate[1]:DATA:LATest?

最新の CAL1 の結果を読み取れ。

説明 このコマンドは、最新の CALC1 の結果のみを戻すという点を除いては、CALC1: DATA?とまったく同じうように働きます。

### CALCulate2

# リミット試験を設定し制御せよ。

下記のコマンドを使用して、DUT についての3つのリミット試験を設定し、制御します。ビニング動作を行うためにハンドラとともに使用する場合は、ソースメータとハンドラとの通信は、デジタルI/O ポートを経由して行われます。デジタル出力ラインのための、多数の制御項目は、SOURce2 サブシステムを使って実施します。これらの制御項目に含まれるのは、デジタル出力ラインの設定とクリアリング、およびバルス幅の設定です。詳細については、「SOURce2 サブシステム」を参照してください。

# Select input path (入力パスを選択せよ)

:FEED <name>

:CALCulate2:FEED<name>

リミット試験の入力パスを選択せよ。

パラメータ <name> = CALCulate[1]

CALCI の結果を使用せよ。

VOLTage

測定した電圧読取り値を使用せよ。

CURRent RESistance 測定した電流読取り値を使用せよ。測定した抵抗読取り値を使用せよ。

照会 :EFFD?

リミット試験の入力パスを照会せよ。

説明

このコマンドを使用して、リミット試験の入力パスを選択します。CALCulate[1]を選択すると、指定したリミットが、CALCIの結果と比較されます。VOLTageを選択すると、リミットは電圧測定値と比較されます。CURRent またはRESistanceを選択すると、リミットは、電流測定値、抵抗測定値と、それぞれ比較されます。

# Null feed reading(ヌルフィード読取り値)

:OFFSet <n>

:CALCilate2:NULL:OFFSet <n>

フィードのヌルオフセット(REL)を指定せよ。

パラメータ <n>=-9.999999e20から9.999999e20

ヌルオフセット値を指定せよ。

照会

:OFFSet?

ヌルオフセット値を照会せよ。

説明

このコマンドを使用すれば、選択したフィードに対するヌルオフセット(REL)を設定することができます。ヌルオフセットが使用可能の場合(:NULL:STATe 参照)は、結果は、フィードの読取り値とオフセット値の代数差となります。 CALC2 の読取り値=フィードの読取り値-ヌルオフセット

:ACQuire

:CALCulate2:NULL:ACQuire

自動的に REL 値を取得せよ。

説明

このコマンドは、ヌルオフセット値を自動的に取得します。次に来る利用可能な 読み取り値が、オフセット値となります。 :STATe <b>

:CALCulate2:NULL:STATe <b> ヌルオフセットを制御せよ。

パラメータ < b> = 1 または ON

ヌルオフセットを使用許可にせよ。

0またはOFF

ヌルオフセットを解除状態にせよ。

会照

\*STATe?

ヌルオフセットの状態を照会せよ。

説明

このコマンドを使用して、ヌルオフセットを使用可能または解除状態にします。 使用可能の場合は、CALC2の読取り値は、ヌルオフセット値を含みます(:OFFSet 参照)。解除状態の場合は、CALC2 はヌルオフセットを含みません。

### Read CALC2 (CALC2 を読み取れ)

:DATA?

\*CALCulate2:DATA?

CALC2 を読み取れ。

説明

このコマンドを使用して、CALC2 リミット試験に使用した読取り値を取得しま す。ヌルオフセットが使用可能(ヌルフィード読取り値を参照)であれば、 CALC2の読取り値はヌルオフセット値を含みます。 リミット試験のうち、少なくとも1つは、リミット試験読取り値を取得するため

に、使用状態にする必要があります(「リミット試験の設定と制御 :STATe 参 照」)。

注記 ソースメータの各動作ブロックを通過するデータの流れの状況の詳細な説明について は、付録Dの「データフロー」を参照してください。

:LATest?

:CALCulate2:DATA:LATest?

最新のCAL2の結果を読み取れ。

説明

このコマンドは、最新のヌルオフセット値のみを戻すという点を除いては、 CALC2:DATA とまったく同じうように働きます。

# Configure and control limit tests(リミット試験の設定と制御)

:COMPliance:FAIL <name>

:CALCulate2:LIMit[1]:COMPliance:FAIL <name>

パラメータ <name> =IN ユニットがコンプライアンスに入るとリミット1試験に不合格。 OUT ユニットがコンプライアンスから出るとリミット1試験に不合格。

会親 :FAIL? リミット1試験が不合格になった時に照会せよ。

説明

このコマンドを使用して、リミット1試験不合格の原因となる条件を指定します。 IN を指定する場合は、ソースメータがコンプライアンスに入ると、試験は不合格 となります。OUTを指定する場合は、ソースメータがコンプライアンスから出る と、試験は不合格となります。

[:DATA]<n>

:CALCulate2:LIMitx:LOWer[:DATA] <n> 下リミットxを指定せよ。(X = 2,3,2-12) :CALCulate2:LIMitx:UPPerf:DATA] <n> 上リミットxを指定せよ。(X = 2,3,2-12)

パラメータ <n>= -9.999999e20から+9.999999e20リミット値を指定せよ。

DEFault 指定下リミットを-1に設定せよ。

指定上リミットを1に設定せよ。

MINimum 指定リミットを -9, 999999e20 に設定せよ。 MAXimum 指定リミットを +9, 999999e20 に設定せよ。

照会:UPPer? 指定上リミットを照会せよ。

:UPPer? DEFault \*RST デフォルト値上リミットを照会せよ。

 :UPPer? MINimum
 最小許容上リミットを照会せよ。

 :UPPer? MAXimum
 最大許容上リミットを照会せよ。

:LOWer? 指定下リミットを照会せよ。

:LOWer? DEFault \*RST デフォルト値下リミットを照会せよ。

説明 これらのコマンドを使用して、LIMIT 2、LIMIT 3、LIMIT 5 の上下リミットを設定

します。実際のリミットは、どの測定機能が現在選択されているか、によって決まります。たとえば、 $1\mu$ のリミット値は、電流機能に対しては $1\mu$ A、電圧機能に対しては $1\mu$ Vです。リミット値は、レンジ依存ではありません。電圧の場合

の2というリミットは、すべての測定レンジについて2Vです。

:SOURce2<NRf>|<NDN>

:CALCulate2:LIMit[1]:COMPliance:SOURce2 <NRf>!<NDN> リミット1不合格のパターンを指

定せよ。

:CALCulate2:LIMit2:LOWer:SOURce2 <NRf>

グレーディングモードの場合の下 リミットx不合格のパターンを指

定せよ (X=2,3,5-12)。

:CALCulate2:LIMit2:UPPer:SOURce2 <NRf>

グレーディングモードの場合の上 リミットx不合格のパターンを指

定せよ (X=2.3.5-12)。

パラメータ <NRf>= 0から7(3-bit) 10進値

0から15(4-bit) 10進値

<NDN>= 0から#b111(3-bit)2進値

0から #b1111 (4-bit) 2 進値

0から#q7 (3-bit)8進値0から#q17 (4-bit)8進値0から#h7 (3-bit)16進値0から#h17 (4-bit)16進値

照会 :SOURce2? 指定リミットに対するソース値を照会せよ。

説明 これらのコマンドを使用して、指定した試験のディジタル出力「不合格」パターン(0から7は3ビット、0から15は4ビット)を定義します。リミット2、3、5-12

の「不合格」パターンはグレーディングモードだけに適用されることに注意して ください。

15.5 A.º

試験は次の順序で行われます。

リミット4試験(コンタクトオプションのみ。付録F参照)

- 2. リミット試験1
- 3. リミット試験 2

A. 下リミット2

B. 上リミット 2

4. リミット試験 x、ここで x = 昇順で 3、5-12

C. 下リミット

D. 上リミット

試験シーケンスでの最初の不合格によって、デジタル出力ポートのビットパターンが決められます。試験シーケンスでのそれ以後の不合格は、定義したデジタル出力パターンを変えません。出力値は、2 進値、8 進値または 16 進値で指定できることに留意してください。

下記の表を使用して、所要のデジタル出力パターンのパラメータ値を決めてください。非10進パラメータと合わせるために、10進値を等価な2進値、8進値または16進値に変換してください。

OUT 4*	OUT 3	OUT 2	OUT 1	0進値
L	L	L	L	0
L	L	L	H	1
L	L	н	L	2
L	L	н	H ·	3
L	H	L	L	4
L	H	L	H	5
L	н	н	L	6
L	н	н	H	7
H	L	L	L	8
H	L	L	H	9
Н	L	Н	L	10
H	L	H	H	11
H	Н	L ·	L	12
Н	H	L	Н	13
H	Н	H	L	14
Н	Н	H	H	15

L=Low (Gnd)

H=High (>+3V)

\*3ビットモードでは OUT4 は使用されません (値=0から7)

「不合格」条件が発生すれば定義した「不合格」ビットパターンを直ちにデジタル出力に出力するように、ソースメータを設定することができます。また、ソースメータはあるデバイスパッケージについてのすべての試験が完了するまで(動作はトリガレイヤーを離れます)待つこともできます。詳細については、「複合試験:BCONtrol」を参照してください。

#### PASS:SOURce2<NRf>NDN

:CALCulate2:LIMitx:PASS:SOURce2 <NRf>|<NDN> ソーティングモード「合格」バターンを設 定せよ (X=2,3,5-12)。

パラメータ <NRf>= 0から7(3-bit) 10 准値

> 10 進値 0から15(4-bit)

<NDN> = 0から#b111 (3-bit) 2 進値

0から#b1111 (4-bit) 2進値

8 進値 0から#a7(3-bit)

8 進値 0から#a17(4-bit)

0から#h7 (3-bit) 16 進値

16 進値 0から#h17(4-bit)

会銀 :SOURce2 プログラムされたソース値を照会せよ。

説明 このコマンドを使用して、ソーティングモードでの試験(リミット2、3、5-12)に

合格する場合の、ディジタル I/O ポートの 3 ビットまたは 4 ビット出力パターンを 定義します。出力値は、2 進、8 進、または 16 進フォーマットで定義することがで きることに注意してください。:SOURce コマンドの「説明」の項に示す表を使用し

て、所要の10進ディジタル出力パターンのパラメータ値を決めて下さい。

:STATe<b>

リミット1試験を制御せよ。 :CALCultae2:LIMit[1]:STATe <b>

:CALCultae2:LIMitx:STATe <b> リミット x 試験を制御せよ (X=2.3.5-12)。

パラメータ <b>=1またはON 指定されたリミット試験を使用可能にせよ。

0またはOFF 指定されたリミット試験を使用禁止にせよ。

**段**会 指定されたリミット試験の状態を照会せよ。 :STATe

説明 これらのコマンドを使用して、リミット1、リミット2、リミット3、およびリ

ミット5からリミット12までの試験を使用可能または使用禁止にします。どのよ

うなリミット試験でも、使用可能にされてなければ実行されません。

リミット試験が使用可能になれば、ディジタル I/O ポートは、リミット試験の制御 を受けます。すなわち、試験プロセスの結果が、I/O ポート上の出力パターンを

アップデートします。

:FAIL?

リミット1試験の結果を読み取れ。 :CALCultae2:LIMit[1]:FAIL?

:CALCultae2:LIMitx:FAIL? リミットx試験の結果を読み取れ(X=2,3,5-12)。

これらのコマンドを使用して、リミット1、リミット2、リミット3、およびリ 説明

ミット5からリミット12までの試験結果を読み取ります。

0=リミット試験合格

1=リミット試験不合格

応答メッセージ(0または1)は、リミット試験の合否だけを知らせます。ミット2、 リミット3、およびリミット5からリミット12までの試験については、メッセー ジはどちらのリミット(上リミットまたは下リミット)で不合格になったのかは、 伝えません。どちらのリミットで不合格になったのかを確認するには、測定イベ ントレジスタを読む必要があります。(「ステータスサブシステム」参照)

リミット試験の結果を読み取っても、試験の不合格表示はクリアされません。不 合格をクリアするには、:CLEar コマンドを使います。

# Composite testing (複合試験)

### PASS:SOURce2<NRf>NDN

:CALCulate2:CLIMits:PASS:SOURce2 <NRf>|<NDN>

複合「合格」パターンを指定せよ。

パラメータ <NRf>= 10 准值 0から7(3-bit) 10 准值 0から15(4-bit) <NDN> = 0から#b111 (3-bit) 2 進値 0から#b1111 (4-bit) 2 進値 0から#q7 (3-bit) 8 進値 0から#q17 (4-bit) 8 進値 0から#h7 (3-bit) 16 進値

照会 :SOURce2? プログラムされたソース値を照会せよ。

0から#h17(4-bit)

説明 このコマンドを使用して、不合格がない場合の、ディジタル I/O ポートの 3 ビットまたは 4 ビット出力パターンを定義します。出力値は、2 進、8 進、または 16 進フォーマットで指定できることに注意してください。:SOURce コマンドの「説明」の項に示す表を使用して、所要の 10 進ディジタル出力パターンのパラメータ値を決めて下さい。

ソース・メータは、「合格」条件が発生すれば直ちに、定義された「合格」ビットパターンをディジタル出力に送るように設定することもできますし、あるいはデバイスパッケージに関するすべての試験が完了するまで、待つこともできます(動作はトリガレイヤーを離れます)。詳細は「複合試験とBCONtrol」を参照してください。

16 進値

ソーティングモードの場合は、このコマンドは、リミット 2、3、5-12 が使用禁止の場合の、リミット 1 試験 (コンプライアンス) に対する 3 ビットまたは 4 ビット出力 「合格」パターンを定義します。

#### FAIL:SOURce2<NRf>NDN

:CALCulate2:CLIMits:FAIL:SOURce2 <NRf>< NDN> 「不合格 | バターンを指定せよ。

パラメータ <NRf>= 10 進値 0から7(3-bit) 0から15(4-bit) 10 進値 <NDN> = 0から#b111 (3-bit) 2 准値 0から#b1111 (4-bit) 2谁值 0から#q7 (3-bit) 8進値 0から#a17 (4-bit) 8准値 0から#h7 (3-bit) 16 進値 16 進値 0から#h17(4-bit)

照会 :SOURce2? プログラムされたソース値を照会せよ。

説明 ソーティングモードの場合には、このコマンドを使用して、不合格がある場合の、ディジタル I/O ポートの 3 ビットまたは 4 ビット出力パターンを定義します。出力値は、2 進、8 進、または 16 進フォーマットで指定できることに注意してください。:SOURce コマンドの「説明」の項に示す表を使用して、所要のディジタル出力パターンの 10 進パラメータ値を決めて下さい。

#### PASS:SMLocation<NRf>NEXT

:CALCulate2:CLIMits:PASS:SMLocation <NRf>:Next「合格」ソースメモリロケーションを指定せよ。

パラメータ <NRf>=1から100

メモリロケーションを指定せよ。

NEXT

リストに含まれる次のメモリロケーション

(現在位置 +1)

照会 :SN

:SMLocation? 「合格」ソースメモリロケーションを照会せよ。

説明

リミット試験実施に際してソースメモリスイープを使っている間は、スイープは 指定メモリロケーションに分岐するか、リストに含まれる次のメモリロケーショ ンに進むことができます。

メモリロケーションが指定されている場合は、試験が順調に進めばスイープはそのメモリロケーションに分岐します (PASS 条件)。失敗した場合は (FAIL 条件)、スイープはリスト中の次のメモリロケーションに進みます。NEXT を選択すれば (デフォルト)、試験結果 (PASS または FAIL 条件) に関係なく、スイープは、リスト中の次のメモリロケーション (現在位置 +1) に進みます。

詳細は、第10部の「ソースメモリスイープ」を参照してください。

### :BCONtrol<name>

:CALCulate2:CLIMits:BCONtrol <name> ディジタル I/O ポートの合格 / 不合格アップデートを制御せよ。

パラメータ< name>=IMMediate第1の不合格が発生したときにアップデート出力ENDスイープ完了後にアップデート出力

照会 :BCONtrol いつディジタル出力がアップデートするか照会せよ。

説明 このコマンドを使って、ディジタル出力が「合格」または「不合格」パターンに アップデートされる時期を照会します。「合格」または「不合格」ビットパターン は、ハンドラに対して、試験プロセスを中止し、DUTを該当する区分容器に入れ るように命令します。

IMMediate を選択したときは、ディジタル出力は、試験プロセス中の、最初の不合格のビットパターンに直ちにアップデートされます。すべての試験に合格する場合は、出力は「合格」ビットパターンにアップデートされます。

ENDを選択したときは、ディジタル出力は、ソース・メータがスイープまたはリスト動作を完了するまで、「合格」または「不合格」ビットバターンにアップデートしません。したがって、複数の試験サイクルを DUT について行うことが可能になります。スキャナカードを使用して、多素子デバイス (すなわち抵抗ネットワーク)を試験することができます。たとえば、仮にお客様が END を使わずに、しかもデバイスパッケージ中の第1素子が合格したとすると、「合格」ビットパターンが出力されます。試験プロセスは停止し、DUT は区分容器に置かれます。その結果、デバイスパッケージ中のほかの素子は、試験を受けないことになります。

### :MODE<name>

:CALCulate2:CLIMits:MODE <name> ディジタル I/O ポート合格 / 不合格出力を制御せよ。

パラメータ < name>=GRADing グレードされた「合格/不合格」パターンを出力せよ。 SORTing ソートされた「合格/不合格」パターンを出力せよ。

照会 :MODE? ディジタル I/O 合格 / 不合格パターンを照会せよ。

説明 このコマンドは、リミット計算がディジタル I/O ラインをドライブするモードを制 御します。GRADingモードでは、読み取り値が、使用可能なすべてのト/下リ ミット許容値の範囲内であれば、合格です。ただし、読み取り値がリミット4コ ンタクトチェック(コンタクトチェック点のみ)とリミット 1 コンプライアンス試 験にまず合格していることが前提となります。ディジタルI/O ラインは、第1のコ ンタクトチェック (オプション)、コンプライアンス、上リミットまたは下リミッ トの不合格のパターンでドライブされます。これ以外の場合は、CALC2:CLIM: PASS:SOUR2 のパターンが出力されます。

> ソーティングモードでは、読み取り値が不合格となる条件は、コンタクトチェッ ク試験とコンプライアンス試験に不合格となるか、それともディジタルI/O帯域の どの範囲にも入らないことです。試験に合格し、リミット1または4だけが使用可 能な場合は、CALC2:CLIM:PASS:SOUR2 のパターンが出力されます。これ以外の 場合は、合格する第1のリミット試験帯域が、そのLOW:SOUR2パターンを出力 します (UPP:SOUR2パターンは無視されます)。リミット I またはリミット 4 に不 合格になる場合は、それぞれのSOUR2パターンが出力されます。リミット 2、3、 5-12 リミット試験に合格しない場合は、CALC2:CLIM:FAIL:SOUR2 のパターンが 出力されます。

# Clear test results (試験結果のクリアリング)

### [:IMMediate]

:CALCulate2:CLIMits:CLEar[:IMMediate] 試験結果をクリアし、ディジタル I/O ポートをリ セットせよ。

このコマンドはリミット試験の試験結果(合格または不合格)をクリアし、ディジ 説明 タル I/O ポートの出力ラインを:SOURce2:TTL の設定値にリセットします。 (「SOURce2 サブシステム」参照)

#### :AUTO<b>

:CALCulate2:CLIMits:CLEar:AUTO <b>試験結果を得るためにオートクリアを制御せよ。

パラメータ <b>=1またはON オートクリアを使用可能にせよ。 0またはOFF オートクリアを使用禁止にせよ。

会親 :AUTO? オートクリアの状態を照会せよ。

説明 オートクリアを使用可能状態にすると、試験結果はクリアされます。そして: INITiate コマンドが送出されて新しい試験シーケンスが開始されると、ディジタル I/O ポートの出力ラインはリセットします。

> これが使用禁止になると、クリアアクションを実行するには、:IMMediate を使わな ければなりません。

### CALCulate3

# バッファ読取り値の統計データを提供せよ。

# Select statistic (統計の選択)

:FORMat <name>

:CALCulate3:FORMat <name> CALC3 フォーマットを指定せよ。

パラメータ <name> = MEAN バッファの中の読取り値の平均値

SDEViation バッファの中の読取り値の標準偏差

MAXimum バッファの中の最大読取り値 MINimum バッファの中の最小読取り値

照会 :FORMat? プログラムされた数式フォーマットを照会せよ

説明 このコマンドを使用して、バッファに格納された読取り値についての、所要の統計値を選択します。これらの統計値についての詳細については、第3部の「データストア」を参照してください。

バッファに格納された読取り値は、CALC1の計算の「生の」測定読取り値であることも、また CALC2 の読取り値であるこもあります。:TRACe サブシステムの:TRACe:FEED コマンドを使用して、格納すべき読取り値の種類を選択します。

# Acquire statistic(統計の取得)

:DATA?

:CALCulate3:DATA? CALC3 の結果を読み取れ。

説明 この照会コマンドを使用して、選択した統計操作を行い、その結果を読み取ります。結果は常にASCIIフォーマットで戻されます。

バッファの設定が「生の」測定読取り値を格納する(:TRACe:FEED SENSe 1)ようになっており、複数の機能を測定する場合は、選択した動作はすべての測定読取り値に対して行われます。たとえば、電圧と電流の測定値がバッファに格納されると、どちらの読取り値に対しても、選択した統計操作が行われます。複数の測定機能に対する統計値は、次の順序で戻されます。

電圧に関する統計値、電流に関する統計値、抵抗に関する統計値

バッファに格納された TIME と STATus のデータ要素については、統計操作は行われません。

バッファが CALC1 または CALC2 の結果を格納するように設定されていれば (: TRACe:FEED CALC1 または CALC2)、1 つの結果だけがこの照会コマンドによって戻されます。

### 注記:

- 1. バッファにデータがなければ、NAN(数ではない)+9.91e37が戻されます。
- 2. 多数の読取り値がバッファの中にある場合は、一部の統計操作の実行時間が長すぎて、 バスタイムアウトエラーを発生することがあります。これを避けるには、:calc3:data?コマ ンドを送り、ステータスバイトレジスタの中の MAV (メッセージ利用可能) ビットが設 定されるまで待ち、そのあと、2400型に対して talk するように呼びかけてください (第 4部の「ステータス体系」を参照)。
- 3. ソースメータの各動作ブロックを通過するデータの流れの状況の詳細な説明については、 付録Dの「データフロー」を参照してください。これを参照すれば、データを読み取る ためにいろいろなコマンドが取得する読取り値の種類が明らかになります。